



人身降世(人身降世)の天界観(天界観)

Incarnational View of the Heavenly Realm

研究概要

本研究では大巡思想の天界観、すなわち上帝の人身降世とそれに伴う天(天界)の細分化的特徴を考察する。

- 天界の重層的構造
9つ以上の重層的な天の構造と上帝の人身降世
- 上帝と天地神明の役割
雷声の意味と天地創造、会散と聴令の体系
- 伝統的天観との差異
東洋の内在天、西洋の超越天、そして天外天への概念の拡張
- 古い天と新しい天
天の変化および改革、自生的近代性/脱近代性の実現

天界の構造

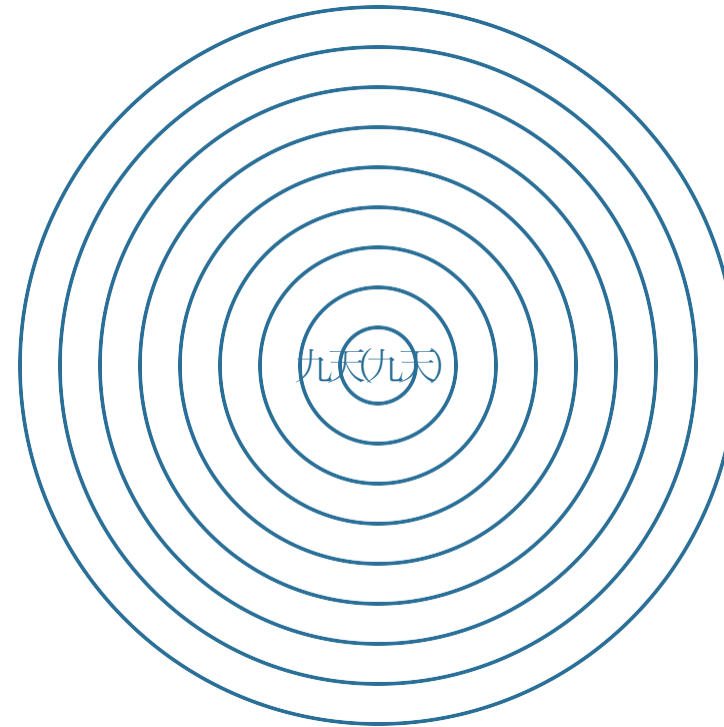
9つ以上の重層的な天

金松煥(金松煥)が上帝に「天の上にまた天がありますか」と伺った。

上帝は「ある」とお答えになった。また彼が「その上にまたありますか」と伺った。

上帝は「またある」とお答えになった。このように九度お答えになり、「そこまで知っておくがよい」とおっしゃった。

- 大巡思想では9つ以上の天が重層的に存在することを示唆
天の外(九天)と、天地人に区分された天 各天
- 界の独立性と連結性を同時に内包 究極的には上帝
- によって統率される秩序体系
-



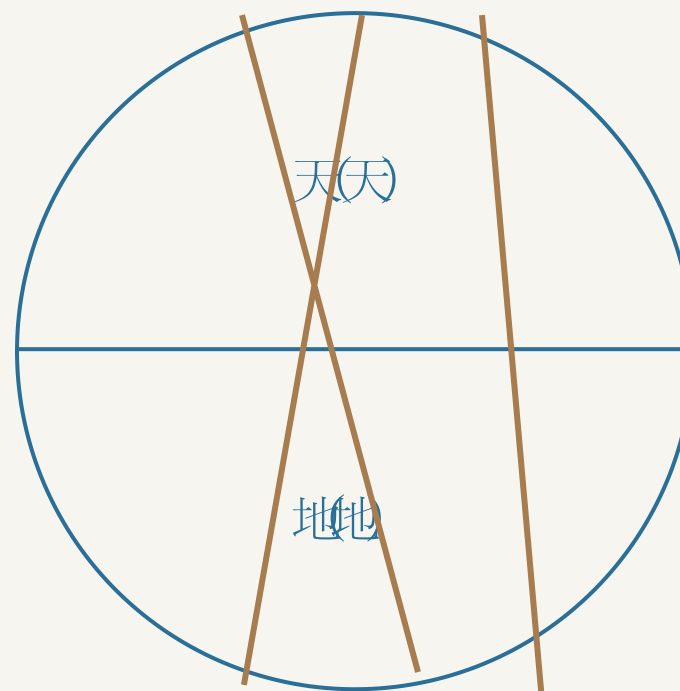
九天応元雷声普化天尊姜聖上帝雷声の意味と天地

創造

雷声(雷聲)とは天令(天令)であり仁声(仁聲)である。雷(雷)は陰陽二氣(陰陽二氣)の結合(結合)によって成雷(成雷)となる。

雷(雷)は声(聲)の体(體)であり、声(聲)は雷(雷)の用(用)として、天地(天地)を分かち、動静進退(動静進退)の変化(變化)によって天氣(天氣)と地氣(地氣)を昇降(昇降)させ、万物(萬物)を生長(生長)させ、生成變化(生成變化)・支配滋養(支配滋養)することを意味する

- 「天地を分かち」-天地が上帝によって雷声で分かたれ作られる
- 「天氣(天氣)と地氣(地氣)を昇降(昇降)させ」-天界と地界の相互作用
- 「万物(萬物)を生長(生長)させ」-天地の化育と万物の生成



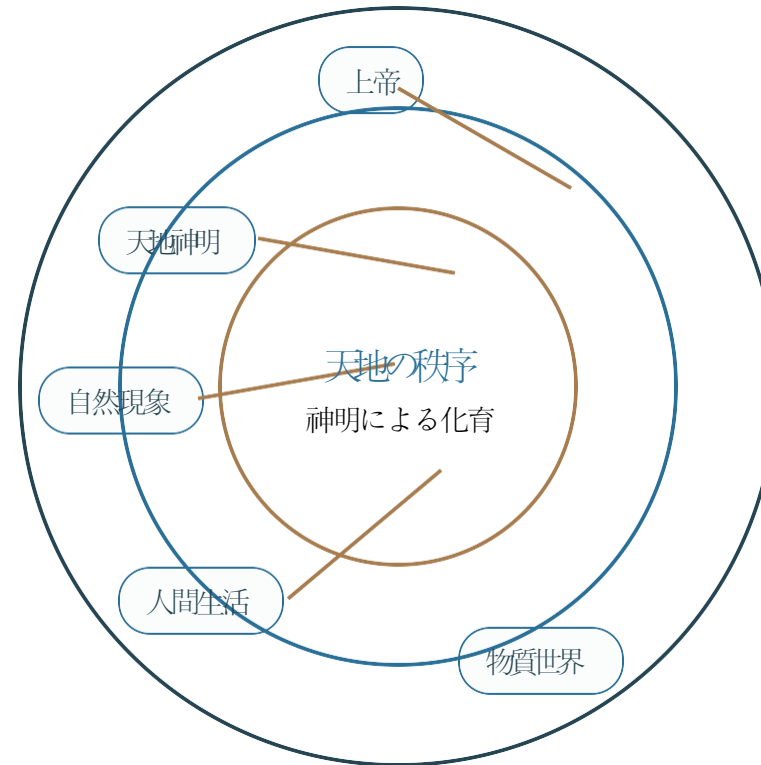
陰陽二氣(陰陽二氣)の結合(結合)によって
雷声(雷聲)が天地を創造し造化する

天地 運行の体系 神明の役割

上帝が従道たちが集まっているところで仰せられた

「七山(七山)の海で捕れる石持(いしもち)も、食べる人を定めておいて網にかかり、農事もまたそのように、食べる人を定めておいて実を結ぶのだ。飢えて死ぬことはない。」

- 人間の吉凶禍福を含む天地の運行が神明によって決定される
- 天地神明が宇宙秩序を維持し、万物の生成と分配を主宰
- 自然界の小さな現象(石持の漁獲)までもが神明の秩序体系の中でなされる
- このような天地体系が上帝によって調和統制される

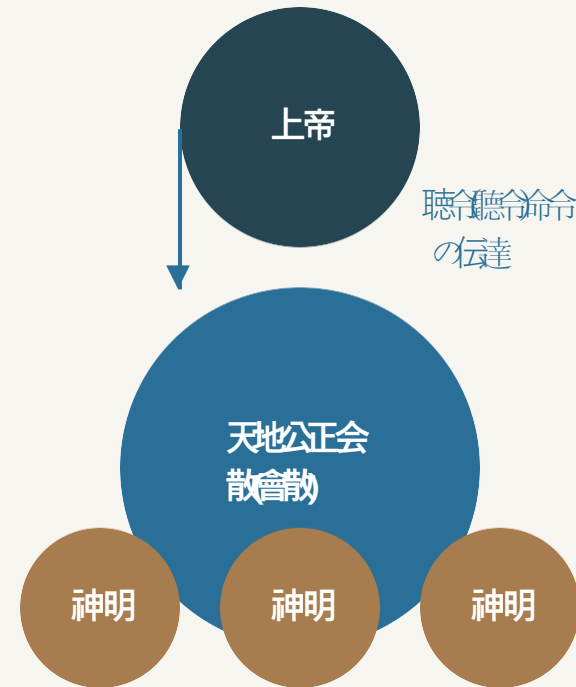


天地神明の会散と聴令

上帝はある日、金亨烈(金亨烈)に「三界大権を主宰し、造化をもって天地を開闢し、後天仙境(後天仙境)を開き、苦海に沈んだ衆生を広く救おうとするのだ」とおっしゃった

「今、末世を迎え、これより無極大運(無極大運)が
開かれようゆえ[.....]清らかな心で天地公庭(天地公庭)
に.....」
と仰せられ、彼に神眼を開いてやり、神明の会散と
聴令(聴令)を参観させられた。16)

- 会散(會散):天地神明が集まっては散じる集会であり、上帝の意を伝達される体系
- 聴令(聴令):天地神明が上帝の命令を聞き遂行する過程
- 「天地の造化により風雨を起こそうとすれば無限の功力を要する。あらゆることは修めずして知る法などないのだ。

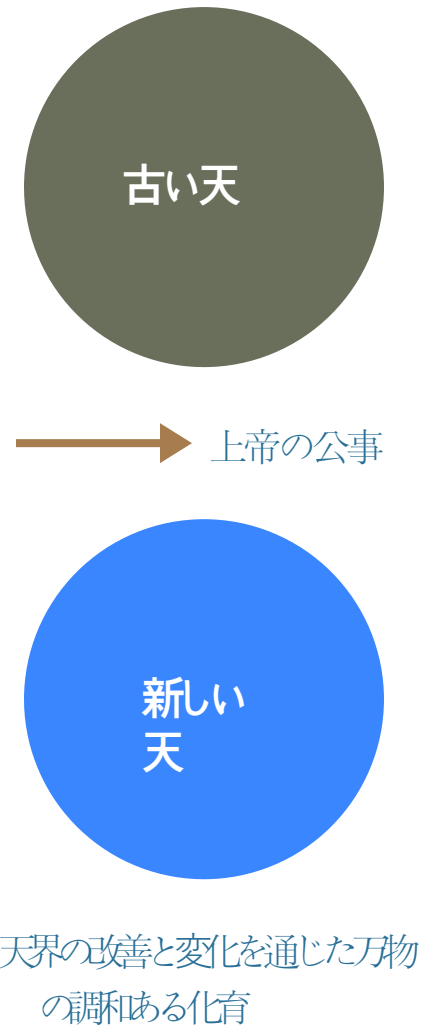


古い天と新しい天

上帝はある日、宗徒たちが集まった席で「古き天は人を殺す公事のみを見ていた。今後、日用百物がすべて欠乏し生きていけなくなるゆえ、今作り変えなければならぬ。」とおっしゃった

上帝は公事を終えられ「かろうじて延命はできるようにしたが、壮丁は腹を満たせず、腹が減ったという声が九天に達するだろう」とおっしゃった

- 天も時間が経つにつれて古き天となりうる
- 古き天は人を殺す公事のみを見ており、改革が必要な状態
- 上帝が三日間の公事を通じて天を作り変える
- 天の変化と改革は上帝の意図に従って進行する



結解既存の天観との相違点および意義

東洋の天観

- 内在天宇宙内部に存在する天
- 性理学以降の天外天概念の隠蔽

西洋の天観

- 超越天宇宙を超越した天
- 近代に至り「神は死んだ」という表現で否定

大巡思想の天観天外天(天外天)の概念

- 既存の天を認めつつも古き天(古き天)と見て、東洋の内在天と西洋の超越天を総合的に融和し、新しき天へと交替
- 加宗(加宗)の概念で天観を提示 – 既存の天観を包越(包越)
- 神明の聴令と会散という既存の天の概念を継承・発展

大巡思想の天観が持つ意義

- 聖俗の関係の再配置: 日常の中に聖性が入る
- 自生的脱近代性への展開